



「第59回全国保育研究大会」第10分科会

「子ども・子育て支援新制度と これからの保育」

～これからの保育と行政との連携～



平成27年11月12日
北海道千歳市 保健福祉部長 原文雄

今日の発表内容



- 1 新制度をきっかけとした
“子育てするなら、千歳市”の取組み
 - 2 子ども・子育て支援事業計画に基づく
千歳市の取組み
 - 3 これからの保育と行政との連携
- 

千歳市の紹介



千歳市は、北海道の空の玄関「新千歳空港」を擁する道央圏の中核都市です。

“子育てするなら、千歳市”をキャッチフレーズに、子育て支援を積極的に推進しています。

- 人口 95,765人(H27年10月1日現在)
- 面積 594.50km²(東京23区とほぼ同じ面積)
- 平均年齢 41.3歳(H22年国勢調査 道内一若い街)
- 合計特殊出生率 1.53(H25年 全国1.43 北海道1.28)
- 出生率 9.8(H25年千人当たり 全国8.2 北海道7.1)
- 財政力指数 0.76(H24年～26年 道内都市部1位)
- 人口増加 5か年で1,608人(H22年～H26年)
- 都市特性 新千歳空港、自衛隊、工業団地があり、子育て環境に恵まれ、子どもが多いまち



3

本市と国の子育て政策との関係

【平成24年11月～27年2月】

「子ども・子育て関連3法に係る国と市町村の懇談会」メンバーに選定

【平成25年3月】

「全国自治体の子ども・子育て支援施策に関する調査」(内閣府)で、先進的取組事例に選定

【平成25年6月～】

「なかよし給食」を市内すべての保育園で導入

※国が主催する「アレルギー疾患講習会」で事例紹介

(横浜・静岡・大阪など、これまで全国7都市で開催)



4

1

新制度をきっかけとした

“子育てするなら、千歳市”の取組み



“子育てするなら、千歳市”をキャッチフレーズに、妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援を提供し、「子育て世代に選ばれるまち」を目指します。

5

ちとせ子育てコンシェルジュ ホームスタート(訪問型子育て支援)

「たくさんある子育て支援の中から、自分に合ったサービスは?」「保育園?幼稚園?子どもが通う施設をどう選んだら?」など、子育てに不慣れな方はもちろん、転入してきたばかりの子育て家庭の方は悩むところです。「ちとせこセンター」、「げんきこセンター」の2か所に配置する「ちとせ子育てコンシェルジュ」は、事業や施設の利用の案内役として子育て家庭をサポートします。また、コンシェルジュは、センターに出向けない保護者の家庭を訪問し、友だちのように寄り添いながら、サポートする「ホームスタート」に取り組みます。



子育てコンシェルジュ

転入親子ウエルカム交流ツアー

転入して間もない子育て家庭向けに、バスツアーを通じて、市の子育て事業や施設を紹介し、千歳に知り合いの少ない親子同士がふれあい、友だち付き合いのきっかけになる「転入親子ウエルカム交流ツアー」を行います。

○ 年2回程度運行します。



6

幼保連携型 認定こども園の普及

保育所と幼稚園のいいところをあわせ持つ「認定こども園」を増やすなど、**教育と保育の一体的な提供**を進めます。

ちとせっこ・げんきっこセンター の休日開館

平日、仕事でいそがしい方でも利用ができるよう、ちとせっこ・げんきっこセンターの休日開館(日曜・祝日)を行います。(各センター月1回)



ちとせっこセンター



学童クラブ・ランドセル来館・ 中高生タイム

「学童クラブ」と、学校からランドセルを背負ったまま児童館に直接行ける登録制度「ランドセル来館」により、子どもの放課後の居場所を確保します。また、児童館の夕方の時間を中高生専用の「中高生タイム」に設定し、中高生の自主的な活動を支援します。



7

いいお産の日(11月3日)in ちとせ

妊娠中、子育て中の方が楽しめるイベントとして、毎年11月3日を記念日とする「いいお産の日inちとせ」を開催します。

市と、市民団体や関係機関が協働でイベントを企画・開催することで、地域全体が一丸となって、妊婦や子育て家庭を応援します。

児童館まつり

児童館では、地域ごとに「児童館まつり」を開催していますが、2年に1度、**全9館合同の大きな児童館まつり**を開催します。



児童館アイドル「かに〜ず」



子育てスキルアップ講座

子どもの「しつけ」は難しく、悩むことも多いと思います。子育てスキルアップ講座では、たたいたり、どなったりしない「しつけ」の方法を、実技を交えて学びます。



8

特定教育・保育施設等の 保育料の軽減

市の独自財源を充てることで、認定こども園や保育園などの保育料を、国の基準より安く設定し、施設を利用する子どもの保護者の負担を軽減します。

不妊治療費の助成

子どもの誕生を願い、不妊治療を望む方に、治療費の一部を助成します。体外受精などの特定不妊治療について、北海道の助成制度に上乘せして、市が独自に助成します。



ランチデー ランチタイム

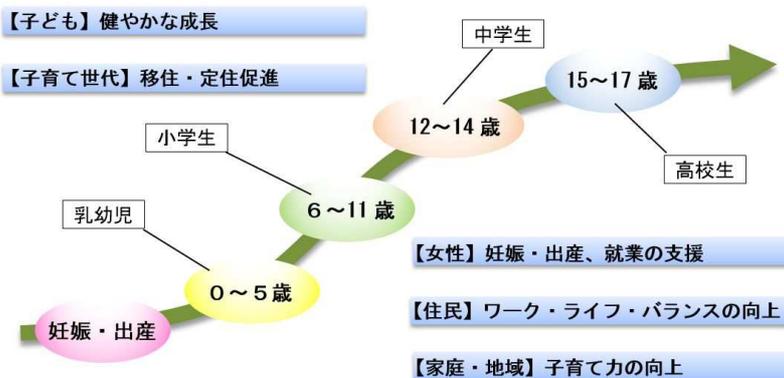
子育て支援センター・児童館で、親子でお弁当を食べながら楽しいお昼を過ごす、ランチデーやランチタイムを設けます。



ランチデー

5つの基本コンセプト

「もう一人子どもを産み育てたい」、「この街で子育てをしたい」と実感できる環境を整備する。



子育てブランディング戦略

先進的な事業、地域特性や強みを生かした事業を展開するほか、事業名称にも工夫をこらし、“子育てするなら、千歳市”と感じてもらえるようなPR活動を展開する。

ブランディングとは、ブランドとして認知されていないものをブランドとして育て上げる手法をいいます。

ブランドネームを“子育てするなら、千歳市”とし、他都市との差別化や様々なPRの手法を用い、子育て世代が「子育ての価値」を実感することを目指す。

●主な取組み

STVテレビ「どさんこワイド」で紹介
UHBテレビ「情報カフェ赤れんが」で紹介
月刊地域づくり特集号(全国版)で紹介
ホームページ、子育てブログ、新聞記事
全国の自治体・議会等の視察対応



STVテレビ「どさんこワイド」

11

市政への効果



●千歳の未来を創る政策

千歳の未来を創るのは子どもたちであり、切れ目のない子育て支援と子どもの居場所づくりを整備する。

●女性が社会で活躍する政策

女性が自分の能力やキャリアを生かして就労し、子育てと仕事を両立させ、主婦層が働きやすい環境を整備する。

●人口増加につながる政策

「もう一人子どもを産み育てたい」と感じる施策、子育てを楽しめる環境を整備し、定住促進を推進する。

●地域経済を活性化する政策

保育環境を充実させて就労機会を確保し、雇用による可処分所得を増やし、経済の活性化を進める。

●市のイメージアップを図る政策

子育て世代に応援し、元気な子どもたちを増やし、本市が発展するプラスイメージを創る。

12

事業構築の考え方



●時代の要請に応える施策であること

国は、幼保連携型認定こども園の普及促進、教育・保育の量的拡大と質的改善、地域の子ども・子育て支援の充実などに取り組むこととしており、市としても新制度に対応した施策を最優先で取り組みます。

●少子化防止に効果のある施策であること

急速な少子化の進行は、地域の疲弊や存続に直結する問題であり、自治体にとって大きな課題です。市は、インパクトのある子育て支援策を打ち出し、独自事業を積極的に展開することで、少子化防止に効果のある施策に取り組みます。

●子育ての孤立化を防ぐ施策であること

本市は、年間に約6千人の市民が転出入しており、身近に相談できる相手がない、子育てに孤立感を持つ親が多いといわれています。子育ての負担や不安を軽減し、「子育てって楽しい」と感じることでできる支援を推進します。

13

コンセプト区分(28事業)



■子どもの健やかな成長

学童クラブの対象学年・定員の拡大、ランドセル来館の導入、中高生タイムの導入、障がい児のためのインクルージョン保育の導入、養育支援ヘルパーの派遣、5歳児相談の導入、ちとせ学習チャレンジ塾の開設

■子育て世代の移住・定住促進

子育てコンシェルジュの導入、ちとせ版ホームスタートの導入、ランチデー・ランチタイムの導入、児童館型子育て支援センターの導入、転入親子ウエルカム交流ツアーの導入、新制度における保育料の独自軽減拡充、ファミリー・サポート・センターの負担軽減、一時預かり事業の拡大

■女性の妊娠・出産・就業の支援

不妊治療費助成事業の導入、いいお産の日inちとせのイベント開催、幼保連携型認定こども園の普及促進、小規模保育の導入、保育士人材バンクの導入、保育士就職セミナーの開催

■住民のワーク・ライフ・バランスの向上

げんきっこセンターの開設、子育て支援センターの休日開館等の導入

■家庭や地域での子育て力の向上

9館合同児童館まつりの開催、公立子育て施設による子育てブログの導入、子育てガイド&おでかけMAPの作成・配布、子育てスキルアップ講座の導入、親子でフリマの開催

14

28事業と対象年齢表



No.	事業名	出産前	乳幼児 (0歳～5歳)	小学生 (6歳～11歳)	中高生 (12歳～17歳)
1	不妊治療費助成事業の導入	■			
2	いいお産の日 in ちとせの開催	■			
3	幼保連携型認定こども園の普及促進		■		
4	小規模保育の導入		■		
5	一時預かり事業の拡大		■		
6	新制度保育料の独自軽減の拡充		■		
7	インクルージョン保育の導入		■		
8	児童館の子育て支援センターの導入		■		
9	ちとせ版ホームスタートの導入		■		
10	ランチデー・ランチタイムの導入		■		
11	転入親子ウエルカム交流ツアーの導入		■		
12	5歳児相談の導入		■		
13	ファミリー・サポート・センターの負担軽減		■	■	

15

No.	事業名	出産前	乳幼児 (0歳～5歳)	小学生 (6歳～11歳)	中高生 (12歳～17歳)
14	学童クラブの対象学年・定員の拡大			■	
15	ランドセル来館の導入			■	
16	中高生タイムの導入				■
17	ちとせ学習チャレンジ塾の開設				■
18	ちとせ子育てコンシェルジュの導入	■			
19	子育てスキルアップ講座の導入	■			
20	子育てブログの導入	■			
21	子育てガイド&おでかけMAP作成	■			
22	子育て支援センターの休日開館	■			
23	9館合同児童館まつりの開催	■			
24	げんきっこセンターの開設	■			
25	養育支援ヘルパーの派遣	■			
26	みんなあ～生まれ！親子でフリマの開催	■			
27	保育士等人材バンクの導入		■		
28	保育士就職セミナーの開催		■		

切れ目のない子育て支援

16

政策分析



■ 合計特殊出生率の推移

区分	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年
全国	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42
全道	1.15	1.18	1.19	1.20	1.19	1.26	1.25	1.26	1.28	1.27
千歳市	1.44	1.49	1.41	1.51	1.42	1.51	1.49	1.46	1.53	1.53

17

■ 千歳市の自然動態(平成22年～26年)



(単位:人、件)

年	増減数 (A-B)	出生 (A)	死亡 (B)	結婚	離婚
平成22年	328	959	631	621	220
平成23年	276	932	656	601	210
平成24年	251	926	675	585	245
平成25年	276	943	667	589	205
平成26年	251	916	665	579	213
計	1,382	4,676	3,294	2,975	1,093

18

2 子ども・子育て支援事業計画に基づく千歳市の取組み

「子ども・子育て支援新制度」



が平成27年4月から
スタートしました。



新制度では、こんな取組を進めます。

1

幼稚園と保育所のいっしょをひとつにした「認定こども園」の普及を図ります。

3

幼児期の教育や保育、地域の様々な子育て支援の量の拡充や質の向上を進めます。

2

保育の場を増やし、子育てしやすい、働きやすい社会にします。

4

地域での子ども・子育て支援を充実させます。

新制度で増える教育・保育の場

幼稚園・保育所に加えて、〈認定こども園〉の普及を図ります。

小規模保育などの〈地域型保育〉を新設し、3歳未満児の保育の場を増やします。

19

【施設型給付】



① 幼保連携型認定こども園

教育・保育を一体的に提供できる「幼保連携型認定こども園」の普及を促進し、1号・2号・3号子どもを受け入れます。

平成26年度	平成27年度	平成28年度 (見込み)	平成29年度 (予測)
0か所	7か所	8か所	10か所
なし	(移行前) 公立保育所2 私立保育園4 私立幼稚園1	(移行前) 私立幼稚園1	(移行前) 私立保育園2

※平成27年4月に北海道が幼保連携型認定こども園に認可した14施設のうち、その半数が千歳市内の施設です。

20

② 認可保育所

2号・3号子どもを受け入れ、保育を提供します。



平成26年度	平成27年度	平成28年度 (見込み)	平成29年度 (予測)
9か所	3か所	3か所	1か所
公立保育所2 私立保育園7	私立保育園3	私立保育園3	私立保育園1

③ 幼稚園(新制度) ※私学助成を除く

1号子どもを受け入れ、教育を提供します。



平成26年度	平成27年度	平成28年度 (見込み)	平成29年度 (予測)
0か所	0か所	1か所	10か所
私学助成施設11	私学助成施設10	私学助成施設9	私学助成施設0

21

【地域型保育給付】

① 小規模保育事業



新設の小規模保育事業所

家庭内保育室や認可外保育園からの移行や新設を促進し、3号子ども(0~2歳児)の保育定員を増やします。

平成26年度	平成27年度	平成28年度 (見込み)	平成29年度 (予測)
0か所	6か所 (定員77人)	8か所 (定員122人)	8か所 (定員未定)
—	(移行前) 家庭内保育室4 認可外保育園1 新設1	(移行前) 新設2	—

22

② 事業所内保育事業(地域枠)

事業所内保育所に地域枠を設定し、3号子どもを受け入れます。



平成26年度	平成27年度	平成28年度 (見込み)	平成29年度 (予測)
0か所	2か所 (地域枠17人)	2か所 (地域枠17人)	2か所 (定員未定)
—	(移行前) 認可外の事業所 内保育所2	—	—

③ 家庭的保育事業

新制度の家庭的保育事業は、提供される予定はありません。

④ 居宅訪問型保育事業

新制度の居宅訪問型保育事業は、提供される予定はありません。

23

【地域子ども・子育て支援事業】

① 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)

ちとせっこセンターとげんきっこセンターに、子育てコンシェルジュを配置し、教育・保育施設の情報提供を行うほか、ホームスタート(子育て家庭を2か月で8回訪問)を実施します。

(平成27年度から「子育てコンシェルジュ」を4人配置)



② 地域子育て支援拠点事業(3か所→10か所)

一般型の地域子育て支援センター3か所に加え、連携型の地域子育て支援センターを7か所新設します。

(平成27年度から児童館7か所に地域子育て支援センターを新設)

③ 妊婦健康診査

妊婦の健康の保持及び増進を図るため、妊婦一般健康診査受診票を14回分、超音波検査受診票を6回分交付し、助成を行います。

24

④ 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問)

助産師や保健師が、生後4か月までの乳幼児がいるすべての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行います。



⑤ 養育支援訪問事業等

養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行います。

(平成27年度から「養育支援ヘルパー」を派遣し、家事・育児に不安を抱える家庭を支援)

⑥ 子育て短期支援事業(ショートステイ)

保護者の疾病等の理由により、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養育施設等に入所させ、必要な保護を行います。

25

⑦ ファミリー・サポート・センター事業 (子育て応援活動支援事業)

乳幼児や小学生等をもつ親を利用会員として、児童の預かり等の援助を行うことを希望する提供会員により、子どもの預かり等を行います。

(平成27年度からひとり親家庭の利用料金を半額助成)



⑧ 一時預かり事業(一般型)

家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を、認定こども園や保育所において一時的に預かり、必要な保育を提供します。

(平成27年度から半日コースを新設、施設数を2か所→4か所に拡充)

⑨ 延長保育事業

保育認定を受けた子どもについて、通常の利用時間以外において、認定こども園や保育所等で保育を実施します。

(平成27年度から30分コースを新設、短時間保育の延長保育を新設)

26

⑩ 病児・病後児保育事業(こどもデイケアルーム)

千歳市民病院に隣接する「千歳こどもデイケアルーム」で、看護師と保育士が、病気療養中や回復期にあるお子さんを一時的に預かります。

⑪ 放課後児童健全育成事業(学童クラブ)

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生に対し、小学校の余裕教室や児童館等において、適切な遊びと生活の場を与えて健全な育成を図ります。(小学校内5か所、児童館内10か所)

(平成26年度から小学4年生まで、平成27年度から小学6年生まで受入を拡充、学童クラブ定員を460人→760人に拡大)

⑫ 実費徴収に係る補足給付事業

日用品、文房具その他の物品に要する費用、行事参加費用を助成します。

⑬ 多様な事業者の参入促進・能力活用事業

多様な事業者の新規参入を支援、特別な支援が必要な子どもを受け入れる認定こども園の設置者に、必要な費用の一部を補助します。

27

3 これからの保育と行政との連携

<これからの考え方>

● 新制度をチャンスと捉える。

- ・ 保育の必要性の要件が緩和され、保育サービスの需要が増える。
※新要件: 月48時間以上就労、求職活動90日、育児休業時の在園継続など
- ・ 消費税を財源に、教育・保育や子育て支援の質と量が拡充される。

● 社会環境の変化に対応する。

- ・ 保育施設には少子化による人口減少を抑制する役割がある。
- ・ 子育ての負担や不安、孤立感を持つ保護者支援の使命がある。

● 提供者から利用者の視点へ。

- ・ 措置施設から契約施設へ、利用者とfifty-fiftyの関係へ
- ・ 認定こども園や保育園も地域の一員 (地域貢献の視点を)

「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか？ そうではない。最も頭のいいものか？ そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」チャールズ・ダーウィン



人の象形文字

28

1 質の高い教育・保育の提供

福祉は、「施しではない必要なサービスです。」
乳幼児期は、生涯の人格形成の基礎が培われる重要な時期であり、質の高い教育・保育サービスを提供する。

【千歳市の取組み】(平成27年度)

- 市立認定こども園(2か所)が「英語教室」、「水泳教室」、「科学教室」などの教育プログラムを追加
- こども通園センターが「インクルージョン保育」を開始
(認定こども園や幼稚園等での療育指導、心理士等が巡回支援)
- 市認可事業の地域型保育事業を対象に、保育支援員が「巡回訪問」を行い、保育支援や緊急訓練などを実施

29



毎回楽しみ！ アンディ先生の英語教室



スイミングスクールの水泳教室も楽しいよ！



保育支援員が小規模保育等を巡回訪問

30

2 教育・保育施設と行政の連携

子どもは未来を創る力であり、子どもを産み育てやすい環境を提供することで、少子化を防ぐ役割がある。教育・保育施設と行政が「まちづくり」を一緒に進める。

【千歳市の取組み】(平成27年度)

● 幼保連携型認定こども園への移行支援

事業者説明会開催、重要事項説明書などの情報提供

● 保育士等人材バンクや就職セミナーの活用

保育士等の採用機会を増やし、施設の人材確保を支援

● 「なかよし給食」によるアレルギー対応

市管理栄養士が基本献立や材料表を市内18施設に提供

31

保育士等人材バンクの登録を随時受け付けています



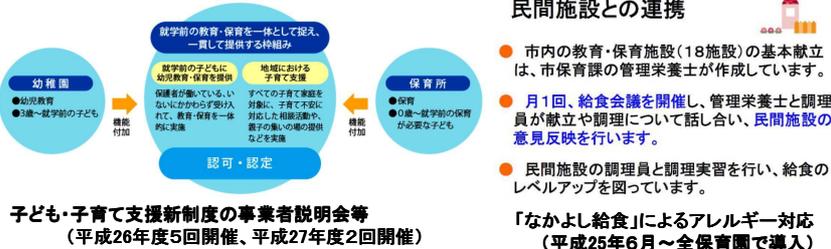
現在お持ちの資格を生かして、市内の保育園、認定こども園、子育て支援センター、児童館、学童クラブ等での就労を希望される方を支援するため、「保育士等人材バンク」を開設しています。

現在就職を希望されている方、将来就職を考えている方(学生可)、資格を持ちながら現場を離れて再就職を検討されている方も、登録は随時受け付けていますので、ぜひこの人材バンクを活用してください。

保育士等人材バンクの開設 (平成26年12月1日)



保育士就職セミナー開催 (平成27年10月12日)



32

3 地域から愛される施設の運営

地域の子育て家庭を支援し、「子育ての拠り所」になる。「この街で子育てしたい」、「安心できる場所」があると思ってもらえるよう、その地域に必要とされる施設になる。

【千歳市の取組み】(平成27年度)

- **地域の親子参加で、楽器演奏や音楽鑑賞**
地域の親子を招待し、バイオリン演奏や音楽コンサートを鑑賞
- **認定こども園の給食や手づくりおやつ試食会**
管理栄養士による料理教室やこども園の給食・おやつの試食会
- **流しそうめん、焼いも会、お餅つきに招待**
園の行事に地域の子どもや親子を招待し、一緒に楽しむ。

33



地域の親子がバイオリン演奏を楽しむ



ハンバーグ料理教室と給食の試食会



地域の子どもたちが「流しそうめん」を楽しむ



地域の親子連れも「焼いも会」に参加

34

